

広島大(女子) V 本大会へ

天皇杯・皇后杯 バレー中国予選 男子は東亜大

バレーボールの天皇杯・皇后杯全日本選手権中国ブロック予選最終日は28日、広島市南区の猫田記念体育館で男女の準決勝と決勝があり、男子は東亜大(山口)、女子は広島大(広島)が優勝した。

東亜大は決勝で岡山 V男子準決勝 東亜大(山口) 2-0 広島大(広島)、岡山六球会(岡山) 2-0 徳山高専(山口) V決勝

東亜大 2 2525 1521 0 岡山六球会(岡山) 2 2525 1521 0 球会 V女子準決勝 大野石油広島(広島) 2-0 さら山口ファイティングスターズ(山口)、広島大(広島) 2-0 誠英高(山口) V決勝

広島大 2 2525 24 1223 26 1 大野石油広島 2 2525 24 1223 26 1 油広島

女子決勝でチャレンジャーの大野石油広島に挑んだ広島大が、見事「下克上」を果たして代表となった。

第1セットを先取されながらの逆転勝利。セッター谷優香は「勝ちたい気持ちで一つになった。このチームで一番の試合ができた」と胸を張った。

第2セットも常に先手を許し、19-22とリードされた。だが、林真衣主将が「いま頑張りな」と鼓舞。1年生内原実栄子のスパイクから3連続得点で追いつくと、粘りのレシーフでしごぎセットを奪い返した。勢いを持ち込んだ第3

気迫で逆転「下克上」 広島大

セットは気迫で圧倒。負けられない焦りから動きの鈍った相手に、スパイクやブロックを決めるたびに大声でほえ、格上をねじ伏せた。

メンバーの多くは九州や関西の強豪校の出身。大学生以外のチームと公式戦で戦うのは今大会が初めてだった。全国の舞台に向け、林主将は「どこまで通用するのか楽しみ」と意気込んだ。(中橋一誠)

【大野石油広島-広島大】第3セット、広島大・谷のブロックが決まり、17-8とす。⑩は林主将

(撮影・山崎亮)

利を収め、男女とも大学勢が代表切符をつかんだ。

両チームは12月上旬から全国9ブロックの代表(男子16チーム、女子14チーム)とプレミアリーグ勢(男子8チーム、女子10チーム)が争う本大会に出場する。

(中橋一誠)

